

＝ ご健康に・ご安全に ＝

5月号を執筆している、今日は4月の下旬。ちょうど1年前は、新型コロナウイルス感染症の拡大で帰省するかどうか悩みに悩んだ末、最終的には東京でひとり単身赴任寮の狭い部屋で過ごす大型連休となった。さて、今年はどうか、とりあえずPCR検査は受けた、あとは家族の了解が・・・??

検査といえば、新型コロナウイルス感染防止対策の影響で、誕生月の12月に受けるはずの健康診断が遅れ2月に受診、その結果が先ごろ手元に届いた。体重が落ちたせいか、尿酸値5.9(朝1錠の薬あり)、血糖値104、腹囲79.5cm、総コレステロール207、中性脂肪109で基準値内に、そしてついにγ-GDPは夢の49、なんとすばらしい。その一方で、寄る年並みからか、視力落ち、血圧81-130と上がり気味。さらには体脂肪25.5、エッと疑いたくなるが、その原因は自分自身で十二分に認識済み。小さい頃から大好きだった鶏の唐揚げは年を重ねても喰らうこと変わりなし。お惣菜を買う時は躊躇しつつも、結局は買い物かごに入れ、コンビニで支払う際にもレジの横にあるガラスケースの中・・・、やっぱり頼んでしまう。

◎安全と健康が幸せの種◎ 私のメールの署名欄に記している。安全で健康に働き・暮らすことは、ひとり一人の幸せを求めていくための土台。そして、それは私たち労働組合が常に意識し、追求していかなければならないことでもある。まず健康、食生活も大事、私自身も自らの努力を怠らず、頑張る所存ですが…。

ところで、この4月より、基幹労連では多くの企業労使が65歳定年制を導入した。これは、ただ単に年金受給開始年齢の引き上げへの対処だけではなく、超少子高齢社会の中で、年齢に関わりなく女性も男性も活躍する姿、つまり多様な人材の活躍(ダイバーシティ)によって、企業の永続的な発展につなげるための取り組み。そうした意味合いを「65歳現役社会の実現」というテーマに掲げAP18春季取り組みと並行して進めてきた。

その基軸は、働くものの安全と健康を第一義に、常に人をど真ん中に据えて物事を考えること。加齢とともに、体力も、身体機能も衰えてはいくが、心身ともに健康に留意しながら、気力と活力を持ち続け、元気に働くことが大切。企業はもちろん、働く側も、そうした意識をもって取り組んでこそ65歳定年制の導入が意味を成す。

新型コロナ感染症拡大の状況がどのようになるのか、未だ先は見えないが、コロナ禍の影響で加速するデジタル社会、そして地球環境問題等も含め、これまでとは形を変え激化する国際競争の中、産業・企業が抱える課題は山積している。そのもとで、ものづくりの現場が生き残っていくためには、持てる技術・技能を、つなぎ・引き継ぐ、その双方において人財が必要となる。65歳現役社会の実現は、それを叶えるものでもあり、労使が一丸となって各種経営施策の実効ある取り組みに資するものと信じている。

あらためて、先行して65歳定年制を導入した企業労使に敬意を表すとともに、検討を進めている企業労使のリード役となることを期待している。

今期もあとわずか、これまでの取り組み総括のもと来期につなぐため、都道府県ごとに「ふれあい対話集会」を開催している。久々の対面方式(基本)、感染防止対策を施しながら、コロナ禍で懸命に働く仲間たちに感謝を込めて、そして第26回参議院議員選挙に擁立する「村田きょうこ」さんの笑顔も一緒に届けに行きたい。

ご安全に

2021年5月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一